（別紙６）

［認知症対応型共同生活介護用］

１．　評 価 結 果 概 要 表

作成日　平成19年11月15日

【評価実施概要】

事業所番号	0970201240		
法人名	医療法人社団隆成会		
事業所名	グループホームあじさい		
所在地	栃木県足利市多田木町1190 （電　話）　0284-90-2201		
評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1－10－6		
訪問調査日	平成19年10月30日	評価確定日	平成19年11月15日

【情報提供票より】（平成19年10月1日事業所記入）

（１）組織概要

開設年月日	平成17年4月1日		
ユニット数	１ユニット	利用定員数計	９人
職員数	９人	常勤7人（うち兼務2人），非常勤2人，常勤換算7.6人	

（２）建物概要

建物構造	木造
	1階建ての1階部分

（３）利用料金等（介護保険自己負担分を除く）

家賃（平均月額）	35,400 円		その他の経費（月額）	・理美容代―実費 ・おむつ代―実費 ・光熱水費―18,000円 ・日用品―4,500円 ・教養娯楽費―3,000円	
敷　　金	無				
保証金の有無 (入居一時金含む)	有（100,000円）		有りの場合 償却の有無	有	
食材料費	朝食	200 円	昼食	400 円	
	夕食	400 円	おやつ	150 円	
	または1日当たり	円			

（４）利用者の概要（平成19年10月1日現在　）

利用者人数	９名	男性	３名	女性	６名
要介護１	２名	要介護２	１名		
要介護３	５名	要介護４	名		
要介護５	１名	要支援２	名		
年齢	平均	86.9 歳	最低	80 歳	最高　96 歳

（５）協力医療機関

協力医療機関名	皆川病院、はぎわら歯科医院、介護老人保健施設四恩苑

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、足利市と佐野市の市境に近い高台にあり、リビングや居室の窓からは山や田などが一望できる自然に恵まれた環境の中に位置している。母体は昭和49年から地元で診療を行ってきた医療法人で、敷地内には病院、老人保健施設があり、看護師資格のある職員がいることから医療的な安心感のあるホームである。開設以来、職員の顔ぶれは変わっておらず、笑顔・やさしい雰囲気で入居者に接し、入居者の支援に関しては「もっと、もっと」という情熱を持って取り組んでおり、休みの日にもホームに顔を出す職員が多い。職員が入居者の間に入って一緒に新聞広告を見たり、テレビを見ながら話題を拡げたりと、ゆったりとした時間の中で入居者と職員が「生活」している様子がうかがえた。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4）
	外部評価の結果は運営推進会議で報告し、スタッフ会議で話し合い、検討している。職員間の風通しが良く、職員の気づきやアイデアなどをその都度取り入れたりしている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4）
	今回の自己評価は主任（計画作成担当者）が中心となってまとめ、管理者が確認した。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4，5，6）
	入居者、入居者家族、自治会長、地区民生委員、市職員に参加してもらっている。入居者、家族にはすべての方に参加を呼びかけ、毎回2～3名が参加している。地区文化祭での入居者の作品展示について相談したり、市の広報の入手方法について助言をいただくなど具体的な話し合いをしている。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7，8）
	家族の訪問の際に暮らしぶりや健康状態等を伝えている。個人別のアルバムを用意したり、個人記録等を説明、見てもらったりしている。入居者自身で小額を管理している方もいるが、その他の方の買い物等はホームで立替払いし、家族の来訪時に領収書を渡して清算している。ホームの相談・苦情等の窓口を重要事項説明書に明記している。玄関に苦情・相談箱を置いているがこれまで利用されたことはない。職員の名前と顔が一致しないという家族からの意見をもとに玄関に職員の氏名と顔写真を貼り出した。利用料等の支払を窓口支払にしたり、運営推進会議に家族にも参加してもらったり、行事に誘ったりと家族との接点を多く持つように配慮している。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3）
	高台に位置していることから日常的な近所づきあいが難しい面もうかがえるが、地区の祭りや文化祭、地域の学校行事などに出掛けて地域の人々との交流を図っている。自治会に入会している。以前は高校生がボランティアに来てくれた時期もあった。友人が訪ねてくる入居者もいる。

2．　評 価 結 果 （詳細）

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
1．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「家庭的な雰囲気の中で、利用者が『安心』『尊厳』『歓び』のある生活を営めるよう、継続的に自立支援を行う。」「一人一人の人間性をよく理解することに努め、それぞれの人格を尊重し、常に利用者の立場に立ったサービスを提供する。」を基本理念としている。尊厳、権利をまもることを大切にしている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念をリビングの目に付きやすい場所に掲示している。朝の申し送りやスタッフ会議等で理念に基づいたケアができるよう話し合っている。職員が大切にしていることは理念に通じており、一人ひとりを大切にした支援に努めている様子がうかがえた。		
2．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	高台に位置していることから日常的な近所づきあいが難しい面もうかがえるが、地区の祭りや文化祭、地域の学校行事などに出掛けて地域の人々との交流を図っている。自治会に入会している。以前は高校生がボランティアに来てくれた時期もあった。友人が訪ねてくる入居者もいる。	○	12月に地域の方にも声をかけて、お茶会（喫茶店）を開催する予定があり、その際に貼り絵の作品展示も考えている。また、ボランティアの受け入れにも積極的な考えを持っている。 ホームを舞台とした地域との交流の方向性もうかがえるので、今後更に地域との交流を充実していくことに期待したい。
3．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果は運営推進会議で報告し、スタッフ会議で話し合い、検討している。職員間の風通しが良く、職員の気づきやアイデアなどをその都度取り入れたりしている。今回の自己評価は主任（計画作成担当者）が中心となってまとめ、管理者が確認した。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者、入居者家族、自治会長、地区民生委員、市職員に参加してもらっている。入居者、家族にはすべての方に参加を呼びかけ、毎回2～3名が参加している。地区文化祭での入居者の作品展示について相談したり、市の広報の入手方法について助言をいただくなど具体的な話し合いをしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所に出掛けたり、電話で話をしたりして連携を図っている。広報の配布方法など、他市町村での取り組みなどをもとにホームから市に提案をすることもある。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の訪問の際に暮らしぶりや健康状態等を伝えている。個人別のアルバムを用意したり、個人記録等を説明、見てもらったりしている。入居者自身で小額を管理している方もいるが、その他の方の買い物等はホームで立替払いし、家族の来訪時に領収書を渡して清算している。	○	法人全体としても広報誌の発行を検討課題としているようなので、ホームの考え方や生活の様子を伝える機会の増加という意味でも実現に期待したい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの相談・苦情等の窓口を重要事項説明書に明記している。玄関に苦情・相談箱を置いているがこれまで利用されたことはない。職員の名前と顔が一致しないという家族からの意見をもとに玄関に職員の氏名と顔写真を貼り出した。利用料等の支払を窓口支払にしたり、運営推進会議に家族にも参加してもらったり、行事に誘ったりと家族との接点を多く持つように配慮している。	○	ホームとしても家族からの意見等を聞くことを大切に考えているようなので、今後も運営推進会議の場等を活用して家族からの意見を聞くための様々な機会づくりや工夫を重ねていくことに期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職はあったがその後復職しており、開設以来職員は変わっていない。職員間の風通しが良く、休日でもホームに顔を出す職員がいたりと、やりがいやホームへの愛着を持っている職員が多いように見受けられた。今後、退職等がある場合には事前に時間をかけて引継ぎをすることを考えている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会が年4～5回あり、ホーム職員も参加している。認知症介護実践研修やその他の外部の研修には出張扱いで参加できるようになっており、受講後は報告書を作成したり、スタッフ会議で発表したりと研修内容の共有に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県のグループホーム協会に加入している。また、主任（計画作成担当者）は、近隣の複数のホームと連絡を取りながら相談できる関係を持っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 **１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応**					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には本人・家族にホームに来てもらいホームの雰囲気を見てもらうようにしている。居室が空いていれば体験入居もできるが、今までのところ体験入居の利用はない。入居当初は、家族と話をしたり、職員が入居者の話（気持ち）をよく聞きながら徐々に馴染めるよう支援している。		
２．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は、入居者の間にさり気なく入って一緒に新聞広告を見たり、テレビを見ながら話題を拡げたりと「共に生活をしている」様子が見られた。慣わしごとや昔のことなど人生の先輩である入居者から教えてもらうことも多い。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント **１．一人ひとりの把握**					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で入居者の思いや意向を把握するよう努めている。困難な場合は、入居時に本人・家族から生活歴等を聞いて参考にしたり、職員の担当制なども取り入れて職員の気づきも踏まえて本人本位に検討している。		
２．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望を踏まえ、カンファレンス等で職員の意見等も取り入れて具体性のある介護計画を作成している。介護記録にモニタリングの欄を設けるなどして、計画に対しての支援の状況や達成度合いなど計画の見直しを踏まえた記録方法なども工夫している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月～半年の定期的な見直しのほか、入居者の状態等に変化が生じた場合などには家族にも相談しながら随時見直しをしている。また、日々の生活の中でも職員間で相談しながら支援方法の変更等をしたりしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算の指定を受けている。希望で買い物に出掛けたり、併設の老人保健施設の行事などに参加したりしている。個別の外出希望などは、家族と連携し、対応してもらっている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を確認している。母体である協力医療機関に変更する方が多い。専門医にかかる方も多いが、病院の地域連携室も活用しながら適切な医療が受けられるように支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「重度化したときの指針」を定め、すべての家族に説明し希望を聞いている。看護職を配置しており、敷地内に病院・老人保健施設があることからホームでの医療的処置への対応もできる体制になっている。		
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 **1．その人らしい暮らしの支援** **（1）一人ひとりの尊重**					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄に関する声かけの仕方など、入居者の誇りやプライバシーに配慮した支援に努めている。個人記録等は事務室で管理している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	おおまかな一日の流れはあるが、一人ひとりのペースを大切にした支援に努めている。訪問時にも昼食後に自室に戻る方がいたり、テレビを見る方がいたりと思い思いに過ごされている様子が見られた。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も入居者と同じ物を一緒に、会話をしながら楽しそうに食べていた。キッチンに立つことは難しくなってきているが、食材の皮むきや行事の際の団子作りなど、入居者のできることは一緒に行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	午後（13:00～15:00）の時間帯での入浴が基本であるが、午前や夜間など希望があれば対応したいと考えている。入浴が苦手な方には声かけの仕方を工夫しながら入浴を促している。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者のできることに配慮しながら、掃除、洗濯物たたみ、食事づくり等の役割ごと、体操、貼り絵、ぬり絵、歌などの楽しみごと・気晴らしの支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩や買い物、月1回のドライブ、地域の行事など外出の機会をつくっている。リビング続きで広いウッドデッキがあり、外気に触れながらお茶を楽しむこともある。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員の見守りのもと、日中は玄関等に鍵をかけていない。ソファーなどに職員が一緒に腰掛けたりしながら落ち着いた雰囲気づくりがなされていた。日課として散歩をする方には、安全を考えて職員が必ず付き添っている。		

外部評価	自己評価	項　　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	○印 （取り組みを期待したい項目）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体の定期的な避難訓練に参加している。夜間想定での訓練の実施もされている。職員に防火管理者の研修を受講させている。近隣の方には開設当初に火災時などに助けてもらえるようお願いしている。	○	災害時にホーム（法人）として地域に貢献できることを伝えたり、地元の消防団等との連携なども検討しながら、より具体的な地域との連携体制を築いていくことを期待したい。
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は職員が作成しているが、併設施設の管理栄養士に定期的に栄養バランス等について指導してもらっている。食事・水分の摂取量を記録している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり **（1）居心地のよい環境づくり**					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にあるテーブル等、理事長宅から譲り受けたものもあり、調度品は家庭的なものが多用されている。壁には入居者の楽しみである貼り絵を季節に応じて貼っており、コスモスなど季節の草花が所どころにある。音や光も適切に配慮されており、気になる空気のよどみ等もない。食卓テーブルのほか、ソファー、和室、ウッドデッキなど入居者が思い思いに過ごせる場所も確保されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	エアコン、換気システム、カーテン、洗面台、収納スペースが準備されており、その他のものは基本的に持ち込みできるようになっている。居室にはテレビや家具などが持ち込まれ、写真や花などを飾って入居者それぞれの居室になっていた。		

※ ▒ は、重点項目。

※ ＷＡＭＮＥＴに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式１）を添付すること。